

大阪府立西浦支援学校 平成 28 年度 第 2 回学校協議会（記録）

日 時：平成 28 年 10 月 11 日（火）10：00～12：00

出席者：協議会会長：加藤 美朗（関西福祉科学大学）

協議会委員：辻本 榮一（西浦町会 総括区長）

鈴木 耕治（羽曳野市立西浦小学校 校長）

石本 悦二（支援センター はる センター長）

山中 聖子（西浦支援学校 PTA 会長）

校 長：西村 誠三

事務局：教頭（齋藤 沖間）首席（河井 江頭 和田）部主事（小：塚本 中：戸田）

報告者：進路部長 倉木

列席者：事務長 小池

傍 聴：2 名

1 開会

（1）定足数確認

司会（和田首席）より、学校協議会委員総数、出席数について報告を行い、本協議会が成立する旨報告があった。

（午前 10 時 00 分現在）

学校協議会委員総数：6 名

出 席：5 名

（2）学校協議会 傍聴規則の読み上げ

（3）事務局員紹介

司会（和田首席）より、事務局員及び報告者、列席者の紹介があった。

（4）配布資料の確認

（5）挨拶

校長の西村より、年度途中また学期途中の校長の交代について、児童生徒と保護者の皆様や学校協議会委員の皆様を驚かせたことと思っているが、これは前校長の大阪府教育庁支援教育課の参事就任に伴うものであり、本校にとっては教育庁とのより太いパイプができたことになると考えていること、そして学校の運営方針については、なんら変わりなく進めていくこと、また、教頭の後任者として支援教育課から沖間史明が着任したことの報告があった。

本日の学校協議会においては『平成 28 年度学校経営計画』の進捗状況、『平成 28 年度授業アンケート』及び今年度の進路状況についての報告の後、『平成 28 年度学校教育自己診断』の質問項目についてご審議、ご意見をいただき参考にさせていただきたい旨の挨拶。

また、教育庁からの指示通り例年 1 学期末と 2 学期後半の 2 回、『安全で安心な学校生活を過ごすために』アンケートを実施しているが、それらとは別に同指示により 9 月に緊急アンケートとして『安全で安心な学校をめざして』アンケートを実施したが、本校では体罰や暴言などにあたるものに対する回答はなかったとの報告があった。

2 報告

(1) 平成 28 年度学校経営計画の進捗状況について (西村校長より)

*『教育実践マトリクス』の活用について【中期的目標 1 (1)】

学校としては、とても必要度の高いものであるが「わかりにくい」「量が多い」というご意見もある。『教育実践マトリクス』は、本校の教育実践の指標であり、その指標を中学部及び高等部は 100%活用して学習グループの編成を行っている。小学部については「特に低学年は実態表が粗くなってしまいがちで使いづらいところがある」「もう少し細かい指標が必要になるのではないか」という意見もあり、担任による実態把握も加味しながら利用している。

現在、教職員用 PC 上で、『教育実践マトリクス』をクリックすれば、その課題にふさわしい教材や授業案とリンクするシステムの構築に向けて準備を始めている。また、ご意見を広く伺いたく、校区内市町村教育委員会を通じて各地域の小・中学校へ配信したうえでご意見をいただきながら改訂していきたい。10行×10列の『教育実践マトリクス』の素案も作成している。

*指導案や教材データの収集について【中期的目標 1 (2)】

本校の倉庫類の棚の準備や整理を進め、『教育実践マトリクス』の指標にもとづいた教材の整備をすすめていく。

*教材や機材の充実について【中期的目標 1 (3)】

教育環境を整える取り組みとして購入したプロジェクター 3 台を使って授業ができるように、大会議室、被服室、4 階理科室の 3 教室に展開しようと考えている。このプロジェクターは、電子黒板になったり、大型画面を使って授業展開ができるということで、夏休みに教員研修で企業に出向き 4～5 メートルのジンバイザメを壁に映し出すことができる例も見た。授業その他の教育活動でいろいろな活用法が考えられる。また、タブレット型端末 24 台の活用も進んでいる。

*地域のリソース(資源)を活用した授業展開について【中期的目標 2 (1)】

大阪府立大学敷地内で清掃実習をさせていただいたり、近隣商業施設での実習をさせていただいたり、少しずつ広がっている。

*卒業後を見通した関係機関等と協働した事業について【中期的目標 2 (1)】

四天王寺悲田院関連施設の『喫茶 ひだまり』での体験活動の計画がある。通常は保護者や、本校教員の対応をして接客の練習をしている生徒たちが実際に喫茶のお手伝いをさせていただく計画で、いよいよ校外に出て本当の意味での社会とのつながりが始まろうとしている。

学校近隣の清掃活動にも乗り出していきたい。中学部において学校周辺での清掃活動も始まっているので、学校近隣の方々とあいさつを交わしながらうまく触れ合っていけばよいと思っている。小学部は大阪府立懐風館高等学校へ徒歩学習で出かけていて、高校生と触れ合う機会としても広がっていている。

*放課後活動の充実について【中期的目標 2 (2)】

今年度 6 月から、課外クラブの活動が始まった。現在 4 つのクラブで陸上 11 名、球技 20 名、美術 5 名、音楽 6 名、体育系が 2 つ、文科系が 2 つの計 42 名が活動している。先日課外クラブ生徒の参加だけではないが、スポーツフェスタ(知的障がいのある方のスポーツ大会)があり、本校の子どもたちも大活躍をしたと聞いている。私もバスケットボールの試合を見たが、たいへんはりきってプレイする様子や試合の度に成長していく様子がみられ、大事な取り組みであると

感じた。課外クラブだけでなく、授業内のクラブも含めてすべての子どもたちにそういった楽しみができればいいと考えている。

***児童生徒会活動について【中期的目標 2 (2)】**

羽曳野市立白鳥小学校や松原市立松原第五中学校と交流を始めようという動きが出てきている。児童生徒会が中心になり、うまく活動できればと考えている。羽曳野市立西浦小学校とは、作品の交流や支援学級間の交流を行っている。

***水耕栽培システムの活用について【中期的目標 2 (3)】**

葉物野菜の収穫がようやく稼働できるようになってきた。味、包装方法など保護者を含め、ご意見を伺っているところ。

***危機管理マニュアルの見直しについて【中期的目標 3 (1)】**

校内の防災マニュアルは作成しているが、実際に災害が起きた場合を想定した保護者との連携については計画段階であり、PTAにもご協力いただき、どのように子どもたちを安全にご家庭に帰し、どのような安否確認や連絡をとっていくのかという具体的なシミュレーションも含めて取り組んでいく。

***学校サポーター制度について【中期的目標 3 (2)】**

本年度7月に募集開始し、現在2名ご登録いただき、11月の西浦フェスティバル等々でお手伝いいただけることになっている。地域の方々に学校の様子を見ていただくことも必要なことなので、協力のお話があればお聞かせいただきたいと考えている。

***メンター（指導者）制度のブラッシュアップについて【中期的目標 4 (1)】**

経験の少ない教員に個別に指導的な立場であるメンターをつけて、取り組んでいる。昨年度13名の初任者がおり、今年度は21名の初任者が加わっている。多くの教員が1年めまたは2年めという中で、どのように育成していくのかが、今後の鍵になると考えている。どのように教員が育っていくのか、育てることができる学校なのか、人材育成の取り組みを大事にしていきたい。

さらに本年度については、昨年度に初任者であった教員を昨年度の経験にもとづいて、初任者と普段より話ができて、助言ができるチューター（相談役）に位置づけてメンター制とチューター制を併せて実践している。初任者や経験が少ない教員を指導する立場の教員が、その指導によって力量が上がっていくということも期待している。

***公開授業や近隣の学校との相互研修について【中期的目標 4 (2)】**

本校において地域の小・中学校のコーディネーターの先生を中心に、『個別的教育支援計画』（様式）を持ち寄った勉強会や、大阪府立美原高等学校の初任者の研修を本校で行っている。本校からは、大阪府立たまがわ高等支援学校の見学や授業のノウハウの研修などを実施した。

***地域支援室の活用について【中期的目標 4 (3)】**

支援学校が地域の幼小中高の支援教育のセンター校であるということは長年言われているが、本校はまず相談にお越し頂く来校型の支援をしていく。相談内容によってはリーディングスタッフだけではなく、本校の様々な教員が相談に同席し、助言を行うことで本校教員の専門性の向上にも役立つのではないかと考えている。本校教員の専門性の向上をはかり、地域へ向けて指導や助言等を担うことで全体の支援教育力の向上を期待するものである。必要に応じて出向かせていただくという形であり、これから増加すると思われる。現状では相談支援の目標20回に対し、現

在すでに 17 回ほど実施されており、地域の資源として活用していただきたい。

(2) 平成 28 年度授業アンケートについて (河井首席より)

◇実施方法及び回収率と集計結果

平成 28 年 7 月 8 日実施。『授業アンケートについて』のプリントと『授業アンケート』を本校児童生徒の保護者の皆様へ配付した。提出期限は 7 月 15 日だが、集計中に提出されたものであれば、期限後であっても計上している。

回収率は平成 27 年度は 291 名に配付し、229 通の回収、回収率 78.6% (少数第 2 位は切り捨て)であったが、平成 28 年度は 357 名に配付し、292 通の回収、回収率 81.7% (少数第 2 位は切り捨て)で、およそ 3%程度回収率が上がっている。

各授業について、

【小学部 保護者向け】

- 「1. 勉強は楽しんで参加できていると思われませんか。」
- 「2. 学習内容は、お子さまに合っていると思われませんか。」
- 「3. 先生のお話や 説明はわかりやすいと思われませんか。」
- 「4. わからないことを質問したり、思ったことを言えていると思われませんか。」
- 「5. 勉強でがんばったことをほめてもらったり、はげましてもらっていると思われませんか。」

【中学部、高等部向け】

- 「1. 勉強はたのしいですか。たのしく参加できていますか。」
- 「2. 勉強はわかりますか。これからもがんばろうと思えますか。」
- 「3. 先生のお話や説明はよくわかりますか。」
- 「4. わからないことを質問したり、思ったことを言えていますか。
(授業は 楽しい雰囲気でしたか。)」
- 「5. 勉強でがんばったことをほめてもらったり、はげましてもらっていますか。」

という 5 項目について、

評価：A そう思う、B だいたいそう思う、C あまりそう思わない、D 思わない、E わからないに対する選択で、回答をお願いした。

配点は、A が 4 点、B が 3 点、C が 2 点、D が 1 点、E 配点なしで集計している。各授業はこの配点をもとに 0 点から 4 点で表した。全校の平均点数は 3.43 で前年度 3.39 ということで、およそ 0.04 ポイント上がっている。

各学部の平均点数は、小学部は 3.48 (前年度 3.46)、中学部は 3.44 (前年度 3.31)、高等部は 3.37 (前年度 3.40) で、おおむね A と B のアンケートの回答が多く、授業についてはよい評価を得ていると考えている。

◇総括

各授業は授業グループによって少人数グループがあったり、多人数のグループがあったりするので、アンケートの母数が極端に違うため、ひとつひとつの授業の点数については、質が異なる。この数字だけでは判断できないというのが総合的な見方である。

例えば、低い点数であってもその教科を細かく見ていくと、生徒 6 名在籍のうち、回答数が 2

件、そのうち1件がすべてEの配点なしとなっているので1件の点数である場合や、一方、高い点であっても、生徒10名で回答数が6件、そのうち配点なしが5件で、1件の点数をもって満点がついている授業がある。やはり、一つひとつの授業を実際に見て評価していく必要があると考える。

最後に、アンケートに答えることが難しい児童生徒の場合、代わりに保護者が回答することもあるが、「授業を見ていないのでわからない」というご意見がアンケートに書かれている場合がある。本校は参観週間に限らず、授業はいつ見に来ていただいてもよいが、参加がなかなか難しいのも現実かと思う。今日から懇談週間が始まるが、こうした機会を用いて『個別の教育支援計画』や『個別の指導計画』『教育実践マトリクス』などを丁寧に説明しながら、授業の様子や児童生徒の実態について情報共有をより丁寧に行っていくことが大切であると考えている。

質疑：(鈴木委員) 授業アンケートというものを大変わかりやすく説明していただいて、非常に安心した。授業アンケートというのは、30～40名の学級があるものだという前提、あるいは高校や中学の教科の先生の100人を超える生徒を対象に想定されて作られたものと思うので、あまり人数が少ないと平均を出すということが馴染まないで、個別にきっちり見ていただいているという点で安心しました。一般校でも40人の学級と20人の学級とでこのアンケートを同じ扱いにしているのか、やはり疑問になるところであるし、個々のアンケートを大切にすることが必要である、という点を肝に銘じているところでもあります。

応答：(河井首席) 本校においても例示させていただいたように、少人数のグループもあったり、一方で大人数のグループもあります。回答数が多く、かつ無回答が少なく3.50がついている授業もあります。同じ数値として取り扱えないということは教職員の間で共有しています。

(西村校長) 授業アンケートの回収率が81.7%ということで、たくさんの保護者の方に協力していただけているのが大変ありがたく思っています。これが大事なポイントではないかと思えます。4点満点の3.4近辺で、ほぼどの授業もそこに収まっています。しかし、これだけで授業が良いと評価する気持ちは全くございません。保護者の皆様に大変関心を高くお持ちいただいておりますので、さらに授業力の向上に取り組んでいくという意味で、数値をとらせていただければと思います。

質疑：(山中委員) 保護者の立場から。やはり「だめ」の評価を子どもはつけたくないようです。だから「思わない」と思っているでも「わからない」と答えてしまう。正直に「思わない」と書くのは勇気があることで、思っているもなかなか書けないということも加味していただければと考えます。先生たちも点数が良いからどうこうではないと言っておりますが、このアンケートは良い数字が出やすくなっていると思います。「D 思わない」をつけようと思っても「C」にしておこうかな、それなら「E」にしておこうかなとなってしまうのではないかと。そのあたりも含め難しい。子どもが判断して評価するのも難しいし、親が代わりに書くのもなお難しい。

(辻本委員) 完全匿名ですか。

(山中委員) そうです。「封をして」と書いてあります。

(辻本委員) 保護者は匿名の意味は理解されていますが、子どもは匿名の意味もなかなか理解するのが難しいですね。

応答：(西村校長) 今、PTA 会長から言っていたことも了解したうえで、授業の特性としてはチームティーチングですので、一人の教員の授業がどうだ、というような視点もなかなか難しい。当然、チームの中で「今日の授業はどうだった」と、日々授業の改善に努めていく必要があります。管理職も含めて、実際の授業を見た上で指導等をしていかなければならない。ですから、数字について安心はしていません。

(河井首席) 匿名かどうかについて、記述式回答については記名する欄がございます。ただし教職員は、どの方がどのような評価をつけたのかはわかりませんので、匿名性が保たれています。

質疑：(山中委員) アンケート自体はどの方が見られるのですか。

応答：(河井首席) 校長です。

(3) 進路状況について (倉木進路部長より)

◇今年度の進路部の取り組み

- ・ 高等部の保護者対象の進路説明会を高3は4月、高2は6月、高1は7月に行った。
- ・ 6月と10月に小学部及び中学部と高等部とで時期を分けて施設作業所見学会を実施した。小学部及び中学部保護者対象は5か所、高等部保護者対象は6か所である。
- ・ 夏休みに教員向けの研修として事業所見学を実施した。小学部及び中学部の教員にも参加を呼びかけ、多数の教員が参加した。
- ・ 6月下旬にPTA主催で進路座談会を行った。約30名の参加があり、質疑応答もあったので、良い機会になったと思う。11月末にも計画している。
- ・ 2学期には9月までに、中学部の生徒・保護者向けに大阪府立の高等支援学校5校のオープンスクールの案内を配り、希望者を募って実施した。また、大阪府立松原高等学校の自立支援コースが学校見学会の案内も保護者へ出している。
- ・ たまがわ高等支援学校のオープンスクールには生徒・保護者合わせて16名が参加された。なにわ高等支援学校には13名が参加された。中学部から内部進学という形が多いが、他の進路も、どんどん情報発信していかなければと思っている。
- ・ 2学期に高等部の保護者向けの職業講話を開催した。大阪障害者職業センターから講師の方に来ていただき、30名弱の参加があった。
- ・ 3学期の予定は進路講演会を、全学部対象で検討しているが、高等部の保護者のみが対象になることもある。
- ・ 卒業生のアフターフォローとして、進路担当者や旧担任の教員が連携しながら事業所を回り、南河内北障害者就業・生活支援センターと連携して行っている。夏休みに行っている実習先で、卒業生がいる場合にはそこで様子を聞いたり、遠方に行っている卒業生のいる事業所も回ったりしている。

◇9月現在の高等部3年生(27名)の進路状況

- ・ 施設作業所、福祉サービス利用希望者が多く、その中でも生活介護の希望者が一番多い。夏休みに実習に行ったり、秋に実習を計画している生徒もいるので、それぞれの保護者の希望をききながら、市の福祉担当課と連携して進めている。
- ・ 今年度の就労希望は3名で、先週、就労に向けた1回めの実習が終わった。今後企業へ確認し、

実習の結果や、実際働くとなった場合にどうかという話を、本人の希望も大事にしながら進めていく。

◇高等部における実習

- ・ 夏季作業所実習を夏休みに行った。高等部全員を対象に希望者を募り、1年生は75名中32名で、約4割。2年生は66名中46名で約7割、3年生は27人中23人で8割を超える参加があった。
- ・ 今年度は2年生に関して実習先を2か所選ぶことができるようにした。来年度からは生徒数も増える見込みなので、1、2年生はそれぞれ1か所、3年生になると2か所というように設定していきたい。校区外でも進路の希望がある場合には情報を提供していきたいと思い、事業所を紹介している。
- ・ 企業実習先については、生徒が実習に通える範囲であれば校区外でも企業開拓をしている。現在、実習先の企業は41社であるが、まだまだ増やしていく必要があると考えている。スーパーや介護施設、製造業、飲食業、清掃、クリーニング、水耕栽培をされている会社や農業をされている会社、保育園なども開拓している。堺市方面がまだまだ少なく、これから広げていきたい。今年度の2年生は10月に23名が企業実習に取り組む予定である。

質疑：(鈴木委員) 1回の実習は何日間ですか。

応答：(倉木進路部長) 1年生は3日間です。2年生は6月と10月の2回でそれぞれ5日間です。

来年度の3年生は6月から10日間実施したいと思っています。9月以降に就労に向けた実習になりますが、そこは必ず10日間の実習を計画しています。

質疑：(辻本委員) それは連続して実施ですか。

応答：(倉木進路部長) 月曜日から金曜日の連続です。土日は学校の休みに合わせて休日とします。

(11時まで5分間の休憩・倉木進路部長及び小池事務長退出)

3 協議

(1) 『平成28年度 学校教育自己診断』の質問項目について

(加藤会長) 『学校教育自己診断』の質問項目については、どのように作成されていますか。

(江頭首席) 大阪府教育庁から質問項目のモデルが出されており、それをもとに昨年度作成しました。まずは一度実施し、結果を受けて改訂していくという形で進めています。継続して結果を考察していくので、今年度は項目を減らしていません。今年度に始まった部活動に関する項目と大阪府教育庁のほうから追加を要請された項目は増えています。児童生徒・保護者用の14「学校の児童生徒指導の方針に共感できる」と17「子どもは、積極的に部活動に参加している」の2項目が増えている。教員用は11「先進的な取り組みや児童生徒の状況に最適な授業展開ができるように、教材や環境が整っている」が増えています。

(加藤会長) 児童生徒・保護者用の新規項目の17「子どもは、積極的に部活動に参加している」について、「うちの子は部活動に加わっていないから当てはまらない」ということで回答される場合もあり、回答の集計の扱いについての難しさがある。

(江頭首席) 今年度から部活動の募集を始めたので、募集に対する「応募」も含めて「積極的に活動に参

加している」のかどうかをご回答いただければと考えています。

(山中委員) D の評価は非常につけづらい。5 「教職員は、子どもの障がいについて理解している」という項目については、理解されている先生もいれば、そうじゃない先生もおられる中でどこにつければいいのか。この項目を「まったくあてはまらない」と答えるのは難しい。項目によっては、つけづらいところもある。質問項目が難しい。先生たちも努力をされていることはすごく分かるが、それを評価するのはすごく難しい。

(加藤会長) ご自身のお子さんと関わっておられる先生方についての回答が中心になると思うが、回答としては学校全体の先生方を想定することになると思われる。そこが保護者と生徒の皆さんにとっては難しいところかと思えます。

(山中委員) そうですね。

(加藤会長) そういうご意見もあったということで、今後ご検討いただきたい。去年開校されたところで、すぐに変えていくことも不適切と思われるので、何年かの経過を見てみないと難しいと思う。一度変えるとまた戻すというのも難しい。ご意見をいろいろ吸い上げていただいて、ご検討を学校でしていただければと思います。

(辻本委員) 1 「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」と6 「子どもは、授業が楽しくわかりやすいといっている」は子どもさんと保護者がすぐに書けると思われるが、たとえば2 「学校は、教育方針をわかりやすく伝えている」という質問項目については、判断が難しいと思われる。

(加藤会長) 児童生徒・保護者となっているが、実質的には保護者がお答えになるものですね。

(江頭首席) そうです。この内容を児童生徒が判断するというのは難しいと思う。ぜひ保護者の方がしっかりとお話しをさせていただいて、授業の様子等をお話ししていただく機会にさせていただければ、と思う。聞き取るのも難しいところがあるとは考えています。

(加藤会長) 結果を見てみないことには、項目については難しいところがある。教員用については、たとえば地域の小学校ではどうですか。

(鈴木委員) 児童・保護者用は、形はほぼ同じです。やや項目を少なくしています。教職員向けはここまで細かくはありません。

(江頭首席) 教員用は質問の項目数としても非常に多い。今年度の10月に校内業務パソコンが教員一人に一台あるという環境になり、アンケート回答を自動集計ができるようになっている。保護者の方は、それぞれのご家庭のICT環境が違い、そういうことは難しく紙媒体となっています。

(加藤会長) これから何年かの経過を見ていく中で何かあればご意見をいただきたい。

(2) その他

・保護者からの意見書について

・平成28年7月20日付意見書【要旨】

プレイルームに大型トランポリンが常設されていますが、授業時間以外にはオープンにするか、もっとオープンなところに常設して誰でも使える様にして頂けないでしょうか。

(鈴木委員) 普通のトランポリンは危険が伴いますね。これは難しいですね。

(西村校長) 自由に利用するというのは、難しいですね。

(和田首席) 大型のトランポリンについては、プレイルームの1階から2階吹き抜けの場所に設置しています。一定の高さは確保されている。エアートランポリンは1階分の高さの自立活動室で使用されている。

(加藤会長) 現在、休憩時間は一切使用しないという形になっていますか。

(塚本小学部主事) 休憩時間は、基本的に小学部優先で教員が付き添って使う。小学部の中でも1年生から6年生まではプレイルームに入りきらないので、低学年の1・2年生が優先的にプレイルームで活動できる時間を確保しています。中学部・高等部の生徒のみなさんには割り当てられた授業時間の中で使っていただいています。

(加藤会長) おそらくトランポリンというのは人気があると思われる。その反面利用する児童生徒が多くなればなるほど安全面に不安がある。他にもいろいろと余暇活動というのを身につけていかなければいけない。そういう意味でも小学部の低学年が使われていると思われる。こだわりのある児童生徒のみなさんもいると思われる。例えば使用予定の表などは貼っていますか。

(河井首席) どの特別教室にも使用割り当て表があり、授業で使う学部については小学部だけではなく、中学部および高等部の割り当ても行っている。授業で使用されない時間は、小学部優先ということが割り当て表に記入されているが、その時間に必ず小学部が使っているわけではないので、空いている状況を判断していただいて、中学部および高等部のニーズのある子どもが使っている。安全確保についても必ず授業中には教員が付き添い、昼休み等の活動には教員の見守りを原則として行っています。

(西村校長) 保護者の方にはこの件について、担任からご説明申し上げてご理解いただいているということではよかったですか。

(和田首席) 担任からそのように報告を受けています。

(加藤会長) 保護者の方には、この件について担任からご説明をしていただいて、ご理解もいただいているということですし、予定表等で見通しがついていれば、徐々に児童生徒のみなさんもだんだん理解が進むのではないかと。イレギュラーな使用みたいなことが、もしなにか楽しみとしてできるようであれば、工夫もできるかもしれない。ひきつづき安全確保に努めていただいて、今のようなかたちで進めていただければよいと思います。

※プレイルームのトランポリンについては、各学部で使用割り当てを決めて使用の予約表と割り当て表を併用しながら全校生徒による利用をすすめていき、プラスアルファで考えられるものがあれば実施すること。現状では予定表その他が示されているということで、それでよいということが確認された。

・平成28年9月16日付けの学校協議会意見書のWebフォームにて提出された文書

その他

①添付したい書類があるのですが、どのように添付すればよいですか？ メールで回答をお願いします。

②送信済みの内容の保管はどうすればよいですか？

(和田首席) 「学校協議会にいただく意見書については大阪府所定の提出様式の内容にあるものとなっております。その内容はすべてフォームにも含んでおりますので、フォームにある記述欄にお書き

いただくのみでお願いいたします。また、メールでの回答はしておりませんのでご了解ください。」ということと、「パソコンやタブレット端末の機能にあるプリントスクリーン、スクリーンショット等のご利用をご検討ください。」ということをご提出いただいた保護者の方に書面をもって、お答えしております。

(加藤会長) 意見書を紙面で提出するだけではなくて、ホームページ上でも提出できないかというご意見があり、そちらのほうをご検討いただいて、個人情報の保護の観点等もありますから、メールというよりもホームページ上に特別にアクセスするものを設置していただいて、それに書き込んでいただくという形になった。おそらく形を変えたので、例えば分量が多いときに添付ファイルが付けられないか等々の技術的な質問であったと理解をさせていただいて、こちらのほうでの協議というよりは早く回答したほうがいいだろうということでしたのでそんな形で進められたのですが、よろしいでしょうか。

(西村校長) はい。

(委員一同 異議なし)

※学校協議会にいただく意見書については所定提出様式の内容にあるものとなっており、すべてフォームにも含んでいるので、フォームにある記述欄にお書きいただくのみでお願いすること。また、メールでの回答はしていないということと、送信済みの内容の保管については、パソコンやタブレット端末の機能にあるプリントスクリーンやスクリーンショット等のご利用をご検討いただくということを書面で回答するという形で進められたことが確認された。

・平成 28 年 9 月 30 日付けの学校協議会意見書の Web フォームにいただいた意見書【要旨】

学校運営全般

①アンケート「安全で安心な学校を過ごすために」アンケート結果はださないのでですか？

28 年度自己診断アンケート結果は重すぎて載せられませんと協議会で回答してましたが、教育振興課から重さは関係ないと指示されてますよね。27 年度すぐ出してください。

協議会の内容に自己診断アンケートの質疑事項とありますが、1 年生の親は 27 年度の質疑を知りません何がしたいのですか？

2 回目の協議会は結果、評価のはずですよなぜ、議題が変わるのですか？

教育振興課よりおかしいと指示されているはずですよ。

②“WEB になったの意見書の回答、子供が書面をもって帰ってきましたが、協議会に送ってますので、協議会にかけてください。”

③【②に同じ】

④ “28 年度学校協議会記録に【 】書きで追記があります。

27 年度学校協議会時事録にも【 】で追記お願いします。例 防災用のお菓子の購入すみとか。新設校なので特に web 発信が必要ですよ。保護者にわかりやすい情報発信御願います。”

(和田首席) 【①について】本校では今年度、以下のようなアンケートを全児童生徒の皆様及び保護者の皆様に実施予定です。

1. 安全で安心な学校生活を過ごすために（例年1学期末と2学期後半に実施予定）
2. 授業アンケート（平成28年7月実施）
3. 【緊急アンケート】安全で安心な学校をめざして（平成28年9月実施）
4. 学校教育自己診断（平成28年10月から11月実施予定）
5. その他

平成28年度学校教育自己診断の結果については、平成28年度の第1回学校協議会の記録にありますように、大阪府立学校のICT環境の変更も一定済みしましたのでホームページに掲載の方向で検討しています。また教育振興室からも意見書の提出方法について工夫をお願いする旨の連絡は受けております。

平成28年度の第2回学校協議会の案件は当初の予定通り「今年度の『学校教育自己診断』の質問項目について」であり、協議を行っていただき、校長に意見を述べていただくものです。この件に関して教育振興室より特段、指示はいただいておりません。平成28年度の『学校教育自己診断』については、本日の第2回学校協議会でご検討いただいた後に行うものです。

(加藤会長) 1学期と2学期の後半に実施される「安全で安心な学校生活を過ごすために」という定例のアンケートについては、どんなふうに使われていますか。

(河井首席) これら2点のアンケートについては、大阪府教育庁より様式が示されており、それを原文のまま児童生徒用としてご家庭に配付できるように印刷し、封筒とともにお渡しして厳封していただいて回収します。回収した封書は学校長のもとで開封される。7月に実施された「安全で安心な学校生活を過ごすために」のアンケートは、授業アンケートの封書に同封して「もしなにかありましたら、こちらをお出しください」と配付しました。

(齋藤教頭) アンケートとなっているので、全員が回答して提出されるというイメージをお持ちであると思われるが、「何かあったらお書きください」ということでアンケートをとっているのです。体罰や暴言を受けたという事案がなければ、アンケートの回答は出てきません。「お世話になっています」または「安心しています」というようなお便りはいただいておりますが、「うちの子どもが体罰を受けました」というようなご意見を今のところいただいているということ、アンケートに対する回答は別段に「ない」ということでご理解いただければと思います。

(加藤会長) 今の説明で非常に分かりやすかったと思いますが、そのことがご家庭には伝わっていますか。

(齋藤教頭) 「何かございましたらお書きください」ということで、「回答欄にご記入して厳封のうえ提出してください」という文書でお配りしておりますので、おわかりだと思います。

(加藤会長) 集計を通してフィードバックするべきものではない、ということですね。

(山中委員) アンケートとして出されたので、もしそういう事案がないということであれば、それが文書等で発表があったら、「何もない」ということが確認でき、安心されるのではないかと。アンケートをした後に結果を気にされる保護者ならば、アンケート結果はどうだったのか、隠しているのではないかとと思われることがあるのかもしれないので、何もなかったということを報告してもらったほうが分かりやすいのではないかと。

(加藤会長) そういうことをアンケートの時点で記しておいていただくというのもひとつの手段かもしれませんが。アンケートを受けた方はいろんなとりにかたをしてしまうので、ご検討していただきたい。

(西村校長) 冒頭に私の挨拶の中でお話しさせていただいたとおり、現状では「ない」ということを学校協議会の記録に掲載し、広く公表するという運びとしたいと思います。ただ、中身によっては保護者の方からのご意見をお聞かせいただきながら、教員がどういった思いで指導を行い、どういった取り組みをしていたのかというところの共通理解に時間がかかる場合もございます。すぐにお返しをするということがなじまない場合もあります。

(加藤会長) そうですね。

(西村校長) はい。往々に担任とのやりとりの中でことばのとりちがいや行き違いがあったりする部分もありますので、そこは担任と管理職も含めて保護者とお話しをする機会をもうけさせていただく場合もあろうかと思えます。

(加藤会長) はい。

(西村校長) 【①について】昨年度の学校教育自己診断結果の詳細な数字が出ていないことについて、これを出していただけないかというご意見と、本年度の自己診断結果はどう出すのですか、という2つのご質問かと思えます。

(加藤会長) 前日も27年度の結果については出ていまして、その時点での容量の問題もあって、全部の結果を載せるのではなく、結果の概要について掲載していただいているということで、ご説明があったということだったと思えます。再度「27年度すぐ出してください」という点については、学校としてどのようにお考えですか。

(西村校長) 基本的に学校教育自己診断については、本年度の本校の教育実践を見ていただいたことで評価をしていただければと思います。27年度の自己診断アンケートについては容量の課題もクリアしているとのことですので、経年比較の形で27年度の結果と28年度の学校教育自己診断の結果をお出しさせていただければ、開校1年めから2年めには、こうなったということで合わせてご覧いただけるような工夫ができるところです。

(辻本委員) その判断でいいのではないですか。

(加藤会長) 質問項目ですが、3項目増えただけですので、そのあたりの説明をもし必要であればしていただければいいかなと思う。

(委員一同 異議なし)

(西村校長) 【①について】第2回の学校協議会の案件が変わったというふうにお思いだったということですが、予定通りの協議を行っています。

(加藤会長) はい。

(委員一同 異議なし)

(加藤会長) 【② (③) について】書面でお返ししたことについて、協議会で取り扱ってくださいということですが、学校運営上重要なことについてはしっかりと取り上げなければいけないが、今回のような技術的なことについてはここで取り扱うべきかどうかを事務局でお諮りいただいて、私のほうにも確認をしていただいたうえで、ここでご意見をいただくかどうかということ事前に諮らせていただくという形でさせていただきまして、② (③) につきまちはすぐに回答していただいているという流れになってはいますが、それでよろしいでしょうか。

(委員一同 異議なし)

(西村校長) 【④について】保護者の方は昨年度の学校協議会の記録をよくお読みいただいていると思

います。昨年度第1回学校協議会で報告があったことについて、その後の報告がないのではないかと
というご指摘かと思えます。本年度6月の第1回学校協議会の記録の中に、協議会の流れである
と、終了後に教育庁と確認できたことなどを事務局からということで注としてあげさせていただきました。
それをお読みいただいて、平成27年度の分もさかのぼって追記してほしいというご意見
をいただいたということかと思えます。本年度第1回学校協議会の記録は追記ではなく、補足説明
もしくは変更点等があったことについてお読みいただきやすいようにしました。

今回ご指摘いただいている平成27年度学校協議会の記録については、3回分の記録を続けて見
ていただきますと、その議事については整理はされると思うのがひとつと、学校経営計画の総ま
とめを平成27年度分としてホームページには掲載してあり、具体的な取組計画・内容と自己評価ま
で掲載しているので、それをご覧いただいたら何ができ、何ができなかったのかということが分か
るようになっていきますので、改めて27年度の分を今から改訂をする必要はないのではないかと考
えております。

(加藤会長) 記録として毎回掲載していただいていますし、非常にたくさんのことも扱っていますので、
お知らせしなければならないことは次回の記録という形でお知らせしていただいているので、この
方法で進めていただいたらいいと思います。

(委員一同 異議なし)

(西村校長) 「新設校なので特に web 発信が必要ですね。保護者にわかりやすい情報発信御願ひします。」
というご意見をいただいています。2年めになりまして本校のホームページの「おしらせ」欄が膨
らんできまして見にくい状況もあるので、その整理はしたいと考えております。それぞれの項目別
に見やすいような整備は年度内にできればと思っています。情報発信について見やすいものを工夫
していきます。

(委員一同 異議なし)

※今年度1学期に実施した『安全で安心な学校生活を過ごすために』及び【緊急アンケート】『安全で安
心な学校をめざして』のアンケート結果については、今回の学校協議会の記録の校長挨拶の中でご報告す
るという形で本校ホームページに掲載し「体罰や暴言等を受けたという事案がなかった」という結果を
広く公表すること、『平成28年度学校教育自己診断』の結果は、経年比較の形で『平成27年度学校教育自
己診断』の結果の記載と合わせてホームページに掲載すること、平成28年度第2回学校協議会の案件は
当初の予定通り『平成28年度学校教育自己診断』の質問項目についてであること、【②(③)について】
技術的なことについては、回答を事務局から行ったほうがよいと判断されたこと、平成27年度の学校協
議会の記録に追記の必要はなく、保護者に分かりやすい情報発信については、本校ホームページの「おし
らせ」欄を見やすいものに今後整備を行っていくということが確認された。

4 協議のまとめ

(加藤会長) 開校2年めを迎えた時期に年度途中で校長先生がお替わりになられたということで、学校も
いろいろな混乱もあったのではないかとと思うが、学校経営計画についても引き続きこれまでのものを
新しい校長先生のほうでもお引継ぎになって進められていくということですので、協議会の委員の
方々もご協力いただいて、よい学校にしていただければと思います。意見書等もいくつか出て

おりますけれども、貴重なご意見だと思えますし、こういったこともいろいろな形でご検討させていただきながら進めていければよいと思えます。

5 次回連絡

- ・次回の学校協議会について

第3回 平成29年2月20日（月）午前10時から2時間を予定。

委員の皆様、日程の調整をよろしくお願いたします。